

シリーズ

## お互いの力でまちづくり ⑫

日本ふるさと塾主宰・萩原茂裕

テレビ番組の「連想ゲーム」ではありませんが、「日本という」と、何を連想しますか？」と、外国のみなさんに尋ねると、返ってくる答えの大半は「富士山」と「桜」ではないでしょうか。その富士山と桜で思い出すことがあります。

桜の花咲く美しい  
まちづくりを展開

6年ほど前に、静岡県富士

宮市の青年会議所が主催する講演会にでかけました。

その講演で私は、「富士宮市といえば、富士山のまちですよ。それでちよつと不思議に思うのですが、桜があまり見られないのはどうしてでしょう。富士山といえば、桜が似合うんですがねえ」

こう話しました。それは、率直に感じたことだったからです。すると、富士宮市の人たちは、すぐにアクションを起こしました。

## 人のために汗を流せるか

青年会議所が音頭をとって「ラブ・フジヤマ運動」を展開し、ラブ・フジヤマさくらの会を発足させたのです。

具体的に何をしたらかといいますが、市役所が苗木、植樹場を提供し、さくら一万本植樹運動がスタートしたのです。

たくさんの市民が早朝から、スコップ、そして弁当持参で、植樹に参加しました。私たちのまちを、桜の花咲く美しいふるさとにしようと、各



人が、それぞれに汗を流したのです。桜の苗木には、植樹した人の名札が下げられました。

市民のひとり一人が、桜の樹を通して、他人のために汗を流すことの大切さを知ったのです。3年目の昭和63年までに、なんと二万二千本が植えられました。

汗を流す材料は  
足もとにころがつている

私は、雪国（北海道・旭川市）に生まれましたが、思い出すのは、積もった雪の除雪です。これは、雪国では、た

いへんな仕事なのです。

朝の除雪は、子どもたちの仕事でした。両隣の前も、道路の雪も、すっきりとよけてしまいます。寒さに顔も手も真っ赤になりますが、全身がうっすらと汗ばんで、ほかほかしてくるのです。そんな日は、一日中、気分がよかったものです。

他人のために汗を流すことのさわやかさを、私たちは雪によって教わりました。

ところがいまは、雪国でも市役所や役場のブルドーザーが、道路の雪をよけていきます。よけたあとのおこぼれの雪が家の前にたまると、取り除けと役場に電話がかかってくるといえます。どこか、おかしい……。豊かさゆえの甘えがあるような気がしてなりません。

他人のために汗を流す——まちづくりの大切な基本です。汗を流す材料は、足元にたくさんころがつています。

## たくさんの市民が

## 桜の苗木を植樹